

令和5年度 学校評価実施報告書

学校名 (双ヶ丘中学校)

教育目標

「自ら学び、未来を創造できる生徒の育成」～楽しくなければ学校ではない～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 総合的な学習では、「防災」を一つの柱として取り組んで3年が経過した。学年によって若干の差異はあるが、それぞれの学年において「自助・共助・公助」について学ぶことができ、これからの社会や未来について、自らが出来ることを考えるきっかけともなった。教科学習についても全国学力・学習状況調査の平均正答率は、全教科とも全国平均より上回っており、各教科の取組の成果が表れた。本校の課題でもある自己肯定感についても、アンケート結果から良い結果となっている。ICT活用についても全国と比較してもトップレベルの活用率であるが、しかし一部の教員には未だに抵抗感を持つものもいる。生徒も教職員も、「探究・挑戦」をさらに強調し、生徒の未来をともに創造する教職員であることを目指していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・コロナが5類となり、学校行事等の制約が撤廃されたが、コロナ前に戻すのではなく、新しい取り組み方や支援の仕方を考えていきたい。 ・学校評価のアンケートから、具体的に動けるもの、見直せるものを洗い出し、従来の学校とは違い、スピード感を持って取り組んで欲しい。 ・行事等の精選により、協力できる部分が削減されたが、新たな取り組み等を考えている場合は、積極的に協力していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年9月22日	学校運営協議会理事
最終評価	令和6年2月27日	学校運営協議会理事

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

- ・ロイロノートを活用し、双方向の学習形態を積極的に取り入れ、生徒が身につけた知識や技能を活用する場面を設定して、主体的・対話的な学びの充実を図る。
- ・GIGAスクール構想のもと、タブレット端末を活用した学習（家庭学習含む）に積極的に取り組む。
- ・学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果から本校の学習課題を明確にし、学習指導要領を踏まえ、各教科・領域の指導と評価の一体化を意識した授業改善を図る。
- ・各教科の指導と評価の一体化を意識したテスト問題の作成および教科会の充実を図る。
- ・探究活動を意識した授業展開を充実させ、主体的に学習に取り組む力を身に付けることで、学習意欲の喚起を図る。

具体的な取組

- ①授業において「めあて」や「見通し」の確認と、それに対応した「まとめ」を的確に行い、学習の「振り返り」により、生徒自身が自分の学習を評価（価値や意義）することを徹底する。
- ②教科指導の在り方として、学習確認プログラムやテスト等の結果を分析し、課題を明確にした授業改善やテスト問題作成に取り組む。
- ③授業力向上を図るため、研究授業や研修会への積極的な参加を促し、研修会で得た成果を伝達研修し、教職員間で共有を図る。
- ④教員が相互に高めあうための授業観察および指導助言を行うとともに、若手・中堅教員実践道場など、OJTを取り入れた研修を充実させる。
- ⑤ドリルパーク等を活用し自主的に家庭学習や朝学習等の定着を図る。

（取組結果を検証する）各種指標

（指標）

- ・授業改善による生徒の変容
 - ・学習確認プログラムの結果
 - ・ドリルパークの生徒カルテ
 - ・研究授業等の研究協議（指導主事からの授業評価）
 - ・教職員との面談
 - ・アンケート結果
- （アンケート項目）
- ・授業の内容はよくわかりますか（生徒向け）
 - ・授業のねらいや評価の方法などをはっきりと伝えていますか（生徒向け）
 - ・授業では、どのくらい「自分のタブレット」を使っていますか（生徒向け）
 - ・予習復習など、自主学習が出来ていますか（生徒向け）

中間評価

各種指標結果

◆令和5年度全国学力・学習状況調査結果（平均正答率（%））

国語：本校 75 京都府 71 全国 69.8

数学：本校 55 京都府 52 全国 51.0

英語：本校 49 京都府 47 全国 45.6 「話すこと」：本校 13 全国 12.4

◆学習確認プログラムの結果（平均正答率（%））

○3年1st Stage・・・総合：本校 54.0（全市 53.3）

国語：60.8（59.2）、社会：45.6（44.5）、数学：51.2（49.4）、理科：56.6（55.9）、英語：55.4（56.3）

○2年Pre-Stage1・・・総合：本校 56.7（全市 55.7）

国語：70.3（69.6）、社会：51.7（50.0）、数学：50.8（51.4）、理科：56.9（55.4）、英語：53.8（51.3）

◆全校生徒対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%）） ◎追加項目

○授業の内容はよくわかりますか（9教科平均）

5（よくわかる）：44.3 4：27.7 3：18.6 2：6.0 1（わからない）：3.4

◎授業には積極的に参加していますか

はい：53.3 どちらかといえば、いい：36.3 どちらかといえば、いい：9.0 いいえ：1.5

◎授業を通して、コミュニケーション能力が身についた

5（出来ている）：37.4 4：28.3 3：22.4 2：6.2 1（出来ていない）：5.2

○授業のねらいや評価の方法などをはっきりと伝えていますか（9教科平均）

5（そう思う）：59.9 4：21.8 3：13.7 2：2.8 1（そう思わない）：1.8

○授業では、どのくらい「自分のタブレット」を使っていますか（9教科平均）

5（よく使っている）：20.3 4：18.8 3：22.1 2：14.7 1（使っていない）：24.1

◎タブレットを使うことで学習に役立っていると思いますか

はい：60.3 どちらかといえば、いい：32.3 どちらかといえば、いい：5.3 いいえ：2.3

○予習復習など、自主学習が出来ていますか
はい : 32.0 どちらかといえば、はい : 36.8 どちらかといえば、いい : 20.0 いいえ : 11.3
○宿題や課題をきちんと提出している
5 (出来ている) : 47.6 4 : 25.0 3 : 16.0 2 : 6.2 1 (出来ていない) : 5.2

自己評価	分析 (成果と課題)
	<p>全国学力・学習状況調査や学習確認プログラムの平均正答率を見ても、ほぼ全てで全国、全市を上回っている。領域や観点、問題形式別にみても一部を除いて平均より上回っている。日頃のテストや学習確認プログラム等の分析により、本校生徒の課題を教科内で共有し、教科指導に活かす取組の効果が出始めていると見ることができる。また、アンケート結果から見ても、授業に積極的に関わり、対話を重視した授業展開を多くの教科が取り入れ、生徒の理解を広げ深める取組を行っている。ICT活用の面では、タブレット使用について、概ね活用出来ているようである。そのことが学習効果として表れていると感じている。家庭学習においても、7割近くがしっかりと取り組んでおり、自学自習の習慣化が出来はじめている。</p> <p>しかし一方で、英語の領域「読むこと」、数学と英語では選択式問題が僅かではあるが下回っている。ICT活用についても、教科や担当によって偏りも見られる。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 学校目標にもある「自ら学ぶ」生徒をさらに増やすためにも、自ら取り組む仕掛けづくりが必要である。主体的に取り組むことができる課題設定（家庭学習含め、授業内解決にとらわれない）や授業展開の工夫をする。 ICT活用をさらに拡充するためにも、タブレットドリルの積極的な活用に取り組む。 残る課題に対応するため、定期テストや小テストの出題の工夫を行う。 校内研修や自主研修を通して、教員が一定以上のICT活用スキルの獲得を行う。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 教科会の充実 学力調査や確認プログラム等の各テストの詳細分析 校内研修等の協議内容 弱点に焦点をあてた定期テスト問題の工夫 タブレットドリルの活用状況
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

最終評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> 教科会の充実：教科により実施にばらつき。 学力調査や確認プログラム等の各テストの詳細分析：学力調査については、記述式の正答率、無解答率が全国平均より良好。 校内研修等の協議内容：校内研修の形式変更により充実が図られた。 弱点に焦点をあてた定期テスト問題の工夫：学力や習熟度の二極化があり今後も検討が必要。 タブレットドリルの活用状況：ある程度は浸透したものの、生徒や教科、学年にはばらつき。
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

	<p>定期テスト問題の工夫では、学習確認プログラムの結果から見ても、いずれの教科も二極化（から三極化）している。共通する弱点より、それぞれに応じた出題の工夫が必要である。また、タブレットドリルについては、各教科から課題として指示はしているものの、授業に沿った提示までは至っていない。生徒の取組時間も個々で大きな差が見受けられる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主任を中心となり、教科会の充実を図っているが、教務とも連携し、時間の確保をしていく。特に定期テスト前などは、臨時に会議の時間を設けていく。 ・調査結果を次年度以降にも活かせるように、分析結果を引き継いでいく。 ・校内研修も研究主任の提案により定期的に協議できる場（雑談形式で若手からベテランまで分け隔てなく会話できる雰囲気づくり）を設定する。 ・多くがICTを活用した授業展開を行っている。生徒も特に問題なく活用している。一部の活用できない教員には、校内研修等を通して、積極的に活用できるように校内で取り組んでいく。

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- ・昨年度と比較すれば全国学力調査の結果が向上している。現1、2年生についても3年次には、全国より上回るように日々の授業の工夫をお願いしたい。
- ・教育方法を昔とは違い、対話的な部分が重視されている。教師も授業のスタイルを更新していくなければならないと思います。
- ・働き方改革と言われるが、授業改善の部分を削らないようにお願いしたい。
- ・学校評価アンケートでは、生徒と保護者の認識の違いがあるようだ。中学生ぐらいになると、親子の会話の減少等により、お互いが見えにくくなっているのだろうか。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- ・「特別の教科 道徳」の時間を中心に、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図る。
- ・様々な場面を通して、規範意識の育成を図る。
- ・自尊感情（自己肯定感や自己有用感）や自己指導能力・共感能力の育成を図る。
- ・いじめや暴力を許さない生徒を育成する。

具体的な取組

- ①「考え、議論する」道徳指導の充実を図り、生徒間の意見交換を大切にする場の設定や教材を工夫した道徳の時間を進める。
- ②道徳の評価についても研修を深めて、生徒の意識を高める評価を実践する。
- ③「挨拶ができる 時間を守れる 人の話をしっかり聴ける」など、ルールを守り、他人を尊重する活動を生徒会活動の中心として取り組む。そのためにも、教職員は意識して実践する。
- ④自己有用感等の自尊感情を高めるため、生徒の主体的な活動を重視するとともに、集団の一員として責任を果たし、自分への自信を深める取組を進める。また、体験的な学習や行事的な学習を中心に、ひとりひとりの生徒に成就感を持たせる。
- ⑤生徒の人権感覚を高め、他者を思いやる気持ちや生命の尊厳を育む心の教育取組を学校全体で推進する。また、いじめ防止対策となる道徳的資質を培うための教材研究や人権啓発活動の取り組みを行う。
- ⑥華道体験を通して、伝統文化を受け継ぎ伝える取組を推進する。
- ⑦各学年の代表生徒が全校生徒の前で自分の思いや考えを発表する「トークイン双ヶ丘」を実施して、生徒の発表する力と聴く力の育成を図る。そして、他者の意見と自分の意見を調整してより良い合意を目指す視点を持たせる。

(取組結果を検証する) 各種指標

(指標)

- ・道徳の取組による生徒の変容（参観者からの授業評価）

- ・生徒会活動による生徒の相互評価
- ・キャリアパスポート、きらりノート等取組のまとめの記載内容
- ・アンケート結果
(アンケート項目)
 - ・頭と心を使って考えることができている（生徒向け）
 - ・思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか（生徒向け）
 - ・自分自身を大切にしていますか（生徒向け）
 - ・学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じていますか（生徒向け）
 - ・お子さまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか（保護者向け）
 - ・お子さまは、自分自身を大切にしているように見えますか（保護者向け）
 - ・お子さまは、ボランティア活動など社会のために役立つことをしていますか（保護者向け）

中間評価

各種指標結果

◆全校生徒および保護者対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%））

○頭と心を使って考えることができている（生徒向け）

5 (出来ている) : 68.6 4 : 18.1 3 : 10.5 2 : 0.7 1 (出来ていない) : 2.1

○思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか（生徒向け）

はい : 69.8 どちらかといえば、はい : 25.0 どちらかといえば、いいえ : 3.3 いいえ : 2.0

○お子さまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか（保護者向け）

はい : 97.1 どちらかといえば、はい : 0.0 どちらかといえば、いいえ : 2.9 いいえ : 0.0

○お子さまは、ボランティア活動など社会のために役立つことをしていますか（保護者向け）

はい : 11.1 どちらかといえば、はい : 0.0 どちらかといえば、いいえ : 70.6 いいえ : 18.3

○自分自身を大切にしていますか（生徒向け）

はい : 68.8 どちらかといえば、はい : 23.3 どちらかといえば、いいえ : 5.3 いいえ : 2.8

○お子さまは、自分自身を大切にしているように見えますか（保護者向け）

はい : 89.7 どちらかといえば、はい : 0.0 どちらかといえば、いいえ : 9.3 いいえ : 0.9

○学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じていますか（生徒向け）

はい : 62.0 どちらかといえば、はい : 28.0 どちらかといえば、いいえ : 6.5 いいえ : 3.5

自己評価

分析（成果と課題）

道徳では、心を使ってしっかりと考えることが出来るようになっており、落ち着いた学校生活を送ることが出来ている。集団のルールやマナーを守るなど基本的なことは十分に出来ており、大きな課題はない。しかし、他人を思いやる心や自身を大切にすることはできるがその反面、ボランティア活動など、目に見える実際の行動に移すことが出来ないようである。コロナ禍で活動の機会が失われたことも一因かもしれないが、自己有用感を得る機会や自尊感情を育む場面が少なくなったと考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・行事や学級活動等を通して、生徒一人一人が活躍できる場面を増やし、積み重ねていきたい。
- ・振り返りでは、生徒の目標や努力を、生徒それぞれの基準から評価し認める。
- ・地域に向けた活動から、ボランティア活動のきっかけをつくる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・道徳や各教科の振り返り（ポートフォリオ等）シート
- ・キャリアパスポート、きらりノート等の記載内容
- ・アンケート結果

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事も精選しての復活、生徒たちの表情も生き生きとし、学校生活を楽しんでいる様子がよくわかる。 地域や保護者の意見もある程度は取り入れる必要はあるが、教職員の負担にならないようお願いしたい。 多くの保護者は生徒を肯定的に見ており、教職員の認識と違う部分もある。学校という場所では時には厳しさも必要だが、極端に偏ることなく、バランスを取りながら生徒を育んで欲しい。 学校運営協議会としても支援が必要であればいつでも協力する。

最終評価

◆ 全校生徒および保護者対象	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や各教科の振り返り（ポートフォリオ等）シート キャリアパスポート、きらりノート等の記載内容
	学校評価アンケート抜粋 12月実施 (回答率 (%)) 矢印は前回と比較
	○頭と心を使って考えることができている（生徒向け）
	5(出来ている) : 67.3↑ 4(どちらかといえば、はい) : 20.4↑ 3(どちらかといえば、いいえ) : 9.9↓ 2(どちらかといえば、いいえ) : 1.2↑ 1(出来ていない) : 1.2↓ ⇒ 5は僅かに減少しているものの、4と5の合計は前回よりも増加
	○思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか（生徒向け）
	はい : 73.8↑ どちらかといえば、はい : 22.7↓ どちらかといえば、いいえ : 2.7↓ いいえ : 0.7↓ ⇒ 大きな生徒間トラブルもなく学校生活を送っている
	○お子さまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか（保護者向け）
	はい : 62.9↓ どちらかといえば、はい : 35.8↑ どちらかといえば、いいえ : 1.3↓ いいえ : 0.0
	○お子さまは、ボランティア活動など社会のために役立つことをしていますか（保護者向け）
	はい : 6.6↓ どちらかといえば、はい : 27.2↑ どちらかといえば、いいえ : 49.0↓ いいえ : 17.2↓
	○自分自身を大切にしていますか（生徒向け）
	はい : 69.6↑ どちらかといえば、はい : 25.4↑ どちらかといえば、いいえ : 4.0↓ いいえ : 1.0↓
	○お子さまは、自分自身を大切にしているように見えますか（保護者向け）
	はい : 57.6↓ どちらかといえば、はい : 35.8↑ どちらかといえば、いいえ : 6.6↓ いいえ : 0.9
	○学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じていますか（生徒向け）
	はい : 59.3↓ どちらかといえば、はい : 33.6↑ どちらかといえば、いいえ : 4.9↓ いいえ : 2.2↓ ⇒ 全ての質問で、はいとどちらかといえば、はいの合計は前回よりも増加している

自己 評 価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	道徳の授業に限らず、人権学習においても、自分事として物事を考える授業の展開を意識し実践してきている。また、落ち着きのある学校生活を送ることが出来て、大きな課題は見受けられない。ボランティア活動をしている生徒が増加傾向にあるのは、コロナ禍で中止になっていた地域行事の復活等が考えられる。そのような活動からも、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙からも、自己肯定感の向上や学校生活の充実にもつながっていると思われる。

分析を踏まえた取組の改善

- 道徳の指導内容と各教科および人権教育との関連を踏まえたカリキュラム・マネジメントを意識した指導の継続を行う。
- 学級通信等を利用した積極的な発信を行う。「トーケイン双ヶ丘」の手法にも変更を加え、自己有用感等を得る機会とし、生徒の可能性を引き出す取り組みをしていきたい。
- 学校行事等も含め、学校は生徒主体の活動場所となるように、教職員の意識も変えていく必要がある。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍後には、様々なことが形を変えるなどして復活している。学校でも同様の対応をお願いします。 今年度もホームページ等で学校の情報を随時発信されている。特に今年は行事等も復活したこともあり、学校の様子がよくわかった。 「チャレンジ体験」も復活し、さらには事業所の方を招待しての「ポスターセッション」など、地域との連携も復活してきた。我々も積極的に協力できればと思う。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- ・生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動を推進する。
- ・基礎体力の向上や基本的生活習慣の確立に向けた指導を推進する。
- ・安全教育（生活・交通・防災）や環境教育の充実を図る。

具体的な取組

- ①昨年度まで取り組んだ「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業で得たことから、基本的生活習慣の確立をさらに目指し、学校と家庭が連携し、運動・食事・睡眠などの生活習慣を子どもたちが規則正しく身に付けるための取組みを推進する。
- ②新たな生活様式を踏まえた日常生活における健康状態の把握の意識づけを図り、感染症対策等、日々の健康面についての認識を深める。
- ③体力テストの結果を分析し、課題を明確にした体力向上年間計画を策定し、取組みの推進を図る。
- ④中学生の健康・安全に対する課題（薬物乱用防止、食育、性に関する指導、自転車交通安全等）への対応を含め、学校の教育活動全体を通じた体系的な学校保健・安全の充実を図る
- ⑤生徒のバランスの取れた生活や成長に配慮するため、部活動指導の見直しと充実を図る。
- ⑥総合的な学習で取り組んでいる「防災に関する学習」については、地域防災の視点で地域との連携を深める。
- ⑦光熱費や校内の資源リサイクルや美化について、生徒からKES学校版を積極的に発信していく。

（取組結果を検証する）各種指標

（指標）

- ・健康観察などの取組記録や保健調査
 - ・健康診断の結果
 - ・新体力テストの結果
- （アンケート項目）
- ・平日は、何時頃に寝ていますか（生徒向け、保護者向け）
 - ・平日は、何時間ぐらい寝ていますか（生徒向け、保護者向け）

中間評価

各種指標結果

◆新体力テスト結果

- 男子：多くが京都市の平均を上回った。特に2年生はすべての種目で上回った。しかし、1・3年のハンドボール投げ、1年の長座体前屈と50m走は下回る結果となった。
- 女子：多くが京都市の平均を上回った。しかし、男子と同様1・3年のハンドボール投げ、2・3年の長座体前屈が下回る結果となった。

◆全校生徒および保護者対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%））

- 平日は、（お子さまは）何時頃に寝ていますか（上段：生徒向け、下段：保護者向け）
- | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|-------|------|-------|-----|-------|-----|-------|------|------|
| 9時まで | 4.0% | 10時頃 | 26.0% | 11時頃 | 31.5% | 0時頃 | 29.0% | 1時頃 | 6.0% | 2時以降 | 3.5% |
| 9時まで | 0.0% | 10時頃 | 0.6% | 11時頃 | 33.7% | 0時頃 | 44.2% | 1時頃 | 17.8% | 2時以降 | 3.7% |

- 平日は、（お子さまは）何時間ぐらい寝ていますか（上段：生徒向け、下段：保護者向け）

9時間以上	9.3%	8時間	33.0%	7時間	36.8%	6時間	14.5%	5時間	4.5%	4時間以下	2.0%
9時間以上	4.3%	8時間	57.7%	7時間	32.5%	6時間	5.5%	5時間	0.0%	4時間以下	0.0%

◆全国学力・学習状況調査（生徒質問紙より）

- 毎日、同じくらいの時間に寝ていますか

している	34.2	どちらかといえば、している	40.6	あまりしていない	20.6	全くしていない	4.5
------	------	---------------	------	----------	------	---------	-----

自己評価	<p>○毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか</p> <table border="1"> <tr> <td>している</td><td>: 53.5</td><td>どちらかといえば、している</td><td>: 37.4</td><td>あまりしていない</td><td>: 6.5</td><td>全くしていない</td><td>: 2.6</td></tr> </table>	している	: 53.5	どちらかといえば、している	: 37.4	あまりしていない	: 6.5	全くしていない	: 2.6
している	: 53.5	どちらかといえば、している	: 37.4	あまりしていない	: 6.5	全くしていない	: 2.6		
<p>分析 (成果と課題)</p> <p>新体力テストでは総合評価は男女とも京都市よりかなり高い結果となっている。男女とも2年生では、ほぼ全ての項目で京都市平均を上回っている。1・3年生では男女ともハンドボール投げに課題がある。近隣の公園等では、ボール使用禁止の場所がほとんどで、投げる動作をする機会が少ない。保健体育の授業や部活動において意図的に取り入れる工夫が必要である。</p> <p>生活習慣については、全国学力・学習状況調査から、同じぐらいの時刻に起きている生徒は全国とほぼ変わりはないものの、同じぐらいの時刻に寝ていると回答している生徒は、全国より3.2ポイント低い。本校のアンケート結果も合わせてみると、朝の登校時の遅刻者は非常に少なく、起床時間を守っていることは評価できるが、学年が上がるごと、また習い事を始めると、帰宅後から就寝時間までの長さが日によって変わり、睡眠時間を削ることにつながっているようである。毎朝決まった時間に起床し、朝食を取ることは出来ているものの、就寝時間が変わることで、日々の疲労が蓄積する可能性も否定できない。特に大きな健康被害を訴えている生徒はいないが、コロナ禍で身につけた感染対策と規則正しい生活については意識を持っているようである。</p>									
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間等、健康教育に関する取組の改善を図る ・毎朝の健康観察において、睡眠時間等に触れることで、生徒や教職員の健康に対する意識向上をさらに進める ・各学年の平均値を下回る項目については、保健体育の授業や部活動において具体的なトレーニングを取り入れる。 									
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察などの記録や保健調査 ・生徒や保護者からの意見集約 ・学校保健委員会での意見集約 								
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後の感染状況や感染防止対策の状況についての質問があった。 ・生徒のマスク着用率が相変わらず高いが、熱中症対策も含め、適切な指導をお願いしたい。 ・2年の体力については問題ないが、1・3年が京都市より低い項目があるのは何か理由や思いあたるものがあるのか。今後は、不得意項目がはっきりと分かっているため、学校で出来る範囲の対策や工夫をお願いしたい。 								
	<p>最終評価</p> <p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察などの記録や保健調査：保健室の来室者数が2学期以降増加。単純計算で10月の来室数は全校生徒の半数に達した。 ・生徒や保護者からの意見集約：年々寒暖差が大きくなり、体調を崩しやすく、コロナ禍の影響もあり、微熱程度でも無理をせずに休養させている保護者が多い。 ・学校保健委員会での意見集約：書面開催で行ったが特に意見はなかった。 								
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>コロナ禍後から様々な制限の解除があった。その影響もあってか、運動や学校行事後に体調を崩す生徒が多かった。また、忍耐力もコロナ禍前と比較すると弱くなっていると感じる教職員も多い。総合の時間では、防災をテーマとした学習を各学年で行うことができた。避難訓練も各回で内容が異なるようにし、恒常化しないような工夫ができた。HANA モデルも今年度より実施することができた。</p>								

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果では向上は見られたものの、基本的な生活習慣については、保健室来室数の増加もあり課題がある。 日々の主体的な健康管理や改善を踏まえた健康教育を生徒会等も連携し、生徒たちが積極的に健康な生活を送るような仕組みを考えたい。 避難訓練等の安全教育についても、総合の時間とも連携し、防災に力を注いでいきたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健室の来室者が多いことが気になる。どの学校も同様なのか今後聞かせていただきたい。 健康管理は学校だけではなく、家庭の協力は必須である。良い手立てがあれば良いが。 年初に大きな地震もあり、避難訓練や防災については改めて大切と感じる。教育の場で出来ることはこれからもお願ひしたい。

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標達成に向けて、基礎基本の徹底から、主体的・対話的で深い学びへとつなげる取組みを推進する。 総合的な学習の時間では、系統的な取組（防災をテーマ）を見直しながら確立し、より効果的に探究活動を行う。
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ミドルリーダーが少ない中、次代のリーダーを育成できるように若手を中心とした組織編成の取組みを図る。 生徒が身につけた知識や技能を活用して、探究活動を行い、課題を解決するために共に学び考える力を、各教科とカリキュラム・マネジメント意識して取り組む。 生徒が身につけた知識や技能を活用・発表する場面として、行事の設定を行う。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員との面談およびキャリアアップシートによる報告 行事に参加していただいた方の感想や意見 学校評価アンケート

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>◆教職員面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ここ数年で教職員も若手が大半を占めることになり、若手でも主任を務めることが、重荷ではあるが微力ながら尽力したい。 総合的な学習の柱を明確化し、校内研修を充実化するなど、研究主任の様々な取り組みにより、探究活動の具体化が徐々に見えてきた。 基礎基本の徹底については、全教職員が意識できている。 <p>◆感想やご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方も一人一人を見るというのは難しいところがあると思いますが、出来る範囲内で見てやつていただき、喜怒哀楽を今後ともよろしくお願ひいたします。 子たちの自主性を引き出しつつ、個性を温かく見守っていただきたい。 <p>◆全校生徒対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%））</p> <p>◎授業を通して、コミュニケーション能力が身についた</p> <p><input type="checkbox"/> (出来ている) : 37.4 <input type="checkbox"/> (やや) : 28.3 <input type="checkbox"/> (やや) : 22.4 <input type="checkbox"/> (やや) : 6.2 <input type="checkbox"/> (出来ていない) : 5.2</p> <p>◎家族や友人、学級や社会のために役立つことをしていますか</p> <p><input type="checkbox"/> (はい) : 57.5 <input type="checkbox"/> (どちらかといえば、はい) : 34.8 <input type="checkbox"/> (どちらかといえば、いいえ) : 5.0 <input type="checkbox"/> (いいえ) : 2.8</p>
--	--

◎学校行事や部活動などを通して、達成感や成就感を感じていますか

はい : 62.0 どちらかといえば、はい : 28.0 どちらかといえば、いいえ : 6.5 いいえ : 3.5

自己評価

分析 (成果と課題)

大幅に変更した学校教育目標について、教職員もある程度の理解をいたいたいた。同じベクトルを持ちながら日々の授業改善に取り組んでいただいている。総合的な学習の柱も確認しながら、カリキュラム・マネジメントの視点を持って、各教科で深い学びへつなげるように尽力されている。しかし、一部の教職員は、理解不足なのか意識した教育活動が図れていないと感じる場面もある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・全教職員がICTを活用し、授業を工夫できる校内研修を計画し、指導力の向上を図る。
- ・「トーキン双ヶ丘」では、年間を通して学習した、身につけたことを発表する場とし、新しい形態に変更していく。
- ・若手の増加やミドルリーダーの不足により、今後は早い段階から主任候補の育成が必要である。
- ・研修の推進とOJTの充実を今後も重点的に取り組んでいきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・基礎基本の徹底への取組に関しておよび授業改善の取組について検証を行う。
- ・総合的な学習の時間のテーマに対して、前期分の検証を教職員間で行う。
- ・各行事等での取り組みに関して、生徒たちの振り返りから効果および検証を行う。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・学校行事等の参観について、コロナ前とほぼ同等に解除され、生徒たちの様子を見て安心した。
- ・コロナ禍の3年間が生徒にどのような影響を与えたのか気にはなっていたが、先生方の尽力もあり、大きな変化もなく、逆にとても元気な様子を伺うことができた。
- ・今後も学校運営協議会として支援していきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

教職員のアンケート結果より

- ・基礎基本の徹底への取組に関しておよび授業改善の取組について

◎指導力向上のために、研修会に積極的に参加していますか (%)

はい : 36.4 どちらかといえば、はい : 22.7 どちらかといえば、いいえ : 27.3 いいえ : 13.6

◎生徒の主体的な学びのために、ICTを効果的に活用している (%)

はい : 33.3 どちらかといえば、はい : 57.1 どちらかといえば、いいえ : 9.5 いいえ : 0.0

- ・総合的な学習の時間のテーマに対して、また、各行事等での取り組みに関して：

生徒自らが調べたり、考えたりしながら学習を進めている。トーキン双ヶ丘や総合での取り組みの発表に向けて主体的に準備を行う中で、様々に工夫をしている場面を見ることができた。他の教育活動の中でも、疑問や課題を生徒が考え、解決する活動を見ることができた。

自己評価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

教科や単元、個々の教員によっては、主体的・対話的な学びまで進んでいない場面も見受けられた。今後も単元を見通した中で、どの場面で主体的・対話的な学びへつなげることができるか、教科会の充実や研修等の参加により研鑽を図る必要がある。防災をテーマとした総合的な学習は1サイクル3年を迎えた。学年ごとに工夫を凝らし、生徒の探究心を育む工夫を行った。一部の教員の理解不足もあり、例年通りや前任校で行った取組にすり替えようとする部分も見られたが、それも今後の課題として、双ヶ丘として大きな柱の基礎部分はある程度見えてきた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・各学年の取組となっている学習会等を学校全体の行事的なものとし、楽しく生徒が取り組める内容を考え、基礎基本の徹底とする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が I C T を活用し、不慣れな教員には今年度のように研究主任が中心となり座談会形式の校内研修の充実を継続して行い、生徒の主体的・対話的な学びへつなげるためのステップとなるようにする。 ・総合の時間に関しては、最近の地震等も教訓とし、校区内での防災を具体的な形にしていくためにも、学校安全担当とも連携した取り組みを考えていきたい。また、総合の担当者会議を時間割内に設定するなどし、日々の情報交換を密に行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の子どもはタブレットの扱い方に長けている。情報モラルの指導はこれまで以上に重要であるし、教科指導ではタブレットをもっと活用して欲しい。 ・我々が考えている以上に、生徒はタブレットを上手に学習のツールとして使いこなすことができるのでは感じる。教職員はそれを見越して子ども以上に使えるように日々努力が必要。 ・最近は災害も多く、防災については生徒も現実的に捉えることができると思う。校区で災害があった時に中学生の活躍に地域は期待している部分があるので、色々な取り組みを行っていたいきたいし、こちらも協力していきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多忙の内訳を分析し、効率的に校務を進めことができるように、組織や取組み改善を図り、持続可能な学校組織の構築を図る。 ・過去事例にとらわれることなく、教育効果のあるものを取捨選択、優先順位をつけ、業務遂行を図る。 <p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校行事・会議等を精選し、教職員や生徒の発想転換で取組を改善する。 ② 「18:30電話応対終了、19:30学校閉鎖」を全教職員で共有し、徹底を図る。 ③ 毎週木曜日を「エコデー」として設定し、19:00学校閉鎖とする。 ④ 教職員の意見から、改革や改定が必要なものはスピード感をもって行う。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの数値 ・年休の取得 ・教職員の変容
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の状況は、例年と変わらず4、5月は多いが6月以降は落ち着く。しかし、45時間超および80時間超の時間外勤務の人数および該当者に変化はない。 ・部活動に関しては、京都市のガイドラインをどの顧問も厳守出来ている。 ・長期休業中の年休取得は、長寿命化工事により職員室が仮移転したことに相まって、積極的に行えた。 ・「エコデー」を教職員の意見により金曜日に設置し、電話応対時刻も17:00にすることで意識は高まった。 <p>分析 (成果と課題)</p> <p>主任などの分掌の責任者への負担があり、勤務時間超過は特定の教職員となっている。また、電話応対終了時刻および学校閉鎖時刻を昨年度より校区内小学校と合わせて30分早めたことで、教職員に余裕が出来たものの、突発的な業務の対応が減少する訳でもなく、丁寧な対応を心掛けている教職員が故に、時間もかかることが多く、大幅に改善したとは言い難い。働き方改革の意識は全教職員とも持っており、学校行事の精選は進んでいるものの、精選そのものが新しい取組となり、その準備や例年との変更作業に時間を費やしている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
自己評価	

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後で戸惑いもあるが、来年度に向けて一定の形づくりを行う。 ・主任や特定の教職員だけに負担がかからないように、人員配置計画も来年度へ引き継ぐ。 ・「エコデー」の再確認 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの数値 ・年休取得日の数値 ・教職員との面談の内容
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報道などを見ても、教職員の働き方改革が喫緊の課題であることは認識している。本校でも時間外勤務の多さは聞いているが、教職員の健康面が心配であり、そのことが生徒たちへ良い影響となると思って欲しい。 ・生徒のためというが、果たしてどれだけのものかしっかりと検証する必要があると感じる。 ・地域行事などの復活もあると思うが、以前と同じように学校が参加する必要があるのかもう一度検討したらよいと思う。
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの数値：月残業80時間以上は、毎月数名。45時間以上も多数。 ・年休取得日の数値：部活動のない日や定期テスト期間中に積極的に取得。 ・教職員との面談の内容：健康面については不調を訴えるものはいなかった。子育て世代が多く、持ち帰りの仕事があり、トータルの業務時間の削減には至っていない。
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>働き方改革について、教職員には浸透しているものの、何を削減・精選するのか戸惑いが見受けられる。留守番電話の設定時刻は、教職員の残業に対する意識は高まった。また、教材研究等、授業のために費やす時間を確保できた。しかし、年休取得に関しては、平日に取得することはこの業界では出来ない。また、子育て世代については、お子さまの看護による取得がほとんどであるが、周りの教職員は協力的である。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌等の見直しは来年度以降も継続しなければならないが、現状、削減は難しく他の分掌との統合等により負担感を軽減する方法しかない。 ・職場の雰囲気はよく、この状況を維持するように努めたい。そのためにも、日々教職員同士のコミュニケーションを大切したい。 ・ライフワークバランスを考え、家庭やプライベートの充実を図れるように勤務状況をしっかりと把握したい。そのためにも、定時退校日の徹底や勤務時間内に仕事を終えるように教職員には取捨選択を徹底する。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等にもあるが、教員の働き方改革は喫緊の課題であると認識している。 ・教職員が、これほど多くの業務をこなされていることを保護者や地域にも知ってもらうことも必要であり、我々も機会あるごとに発信はしている。 ・保護者のアンケートを見ても、一部では個人的な要求があることが気になる。 ・教職員が笑顔で楽しく働けることが、生徒にとっても一番良いことだと思う。陰ながらではあるが応援している。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

生徒全員が楽しく学校生活を送るために、教職員一人ひとりが「いじめ」に対する認識の向上を図るとともに、情報共有（報連相）を徹底し、「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を教職員全員で組織的に行う。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。
- ③ いじめ早期発見するため生徒に対する定期的な調査を次のように実施する。
 - ・生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）の結果
 - ・保護者アンケートの結果
 - ・生徒指導委員会（いじめ対策委員会）による情報提供
 - ・学校運営協議会理事による学校評価
- ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- ① アンケート「悩み事や困ったことがあったときは学校に相談していますか」では、生徒は約5割、保護者は約7割が肯定的な回答であった。
- ② 年度当初の全校集会で委員会の紹介およびメンバー構成について説明した。
- ③ 全校生徒対象、保護者および教職員対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%））
 - 学校教育目標を意識した教育活動を行っている（教職員）
　はい : 25.0 どちらかといえば、はい : 66.7 どちらかといえば、いいえ : 8.3 いいえ : 0.0
 - 学校は楽しく過ごせていますか（生徒）
　はい : 70.3 どちらかといえば、はい : 24.5 どちらかといえば、いいえ : 3.8 いいえ : 1.5
 - お子さまは、学校生活を楽しく過ごしていますか（保護者）
　はい : 57.3 どちらかといえば、はい : 34.8 どちらかといえば、いいえ : 7.3 いいえ : 0.6
 - 生徒は、みな笑顔にあふれ生き生きと学校生活を送っていると感じている（教職員）
　はい : 26.1 どちらかといえば、はい : 65.2 どちらかといえば、いいえ : 8.7 いいえ : 4.3
 - 進路や将来のこと、悩みごとや困ったことがあったときは、先生に相談していますか（生徒）
　はい : 23.5 どちらかといえば、はい : 27.5 どちらかといえば、いいえ : 25.5 いいえ : 23.5
 - 進路や将来のこと、悩みごとや困ったことがあったときは、学校に相談していますか（保護者）
　はい : 21.3 どちらかといえば、はい : 46.3 どちらかといえば、いいえ : 26.2 いいえ : 6.1
 - 本校は、家庭・地域から信頼されていると感じる（教職員）
　はい : 12.5 どちらかといえば、はい : 66.7 どちらかといえば、いいえ : 20.8 いいえ : 0.0
 - 思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか（生徒）
　はい : 69.8 どちらかといえば、はい : 25.0 どちらかといえば、いいえ : 3.3 いいえ : 2.0
 - お子さまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか（保護者）
　はい : 97.1 どちらかといえば、はい : 0.0 どちらかといえば、いいえ : 2.9 いいえ : 0.0
- ④ 定期的に生徒指導委員会やいじめ防止対策委員会、補導委員会を実施し、相談内容の共有を図り、職員会議では全体に周知した。
- ⑤ 学校運営協議会（9月実施）や学校ホームページにて説明・周知を行った。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>いじめアンケートや教育相談から、いじめに繋がるような事案があればすぐに対応している。小学校から継続している案件や過去がトラウマとなり不安を抱えている生徒もいる。大きなトラブルとなる前に教職員が常にアンテナを張り、情報共有を行っている。保護者へも丁寧な説明を心掛け、迅速な指導や対応を行っている。学校評価アンケートの結果から、生徒も保護者も9割以上が学校生活を楽しく過ごしていると回答している。しかし、悩みごとの相談をしているかという問い合わせに対して、保護者については7割を下回り、生徒は5割程度となっている。相談できない要因が何かは今後調査の必要があり、信頼関係をしっかりと築く必要がある。PTAの加入率も年々減少傾向（現在4割程度）にあり、学校との距離感が時代とともに変化していることも一つの要因なのかもしれない。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめ（いじりや嫌がらせ）は絶対許されない」という意識を常に念頭に置き、人権学習や学校生活のあらゆる場面において、人権教育の視点に立って指導の充実を図る。 生徒たちの学校生活の様子や取組をタイムリーに発信できるようにホームページの充実を行う。 保護者と強い信頼関係を構築するためにも、些細なことでも電話連絡や対話を大切にする。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）の結果 保護者アンケートの結果 生徒指導委員会（いじめ対策委員会）による情報提供 学校運営協議会理事による学校評価

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでは、学校を楽しく過ごしていることはとても評価する。学校教育目標の実現が出来ていると感じる。 生徒や保護者が学校に相談しにくいと感じているのが4割前後いること、教職員も、信頼されているとあまり感じていないのは2割という数字が気になる。地域の人間としては、どちらも残念な数値である。学校以外（家庭も含み）に相談できる場所が多いと捉えるのか、学校への信頼の低下なのは難しい判断である。結果だけに囚われずに、今後も生徒に向き合って対応願いたい。

最終評価

自己評価	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）：嫌がらせと感じたことがあったと数件の回答はあったが、過去（小学校時）のものがほとんどであった。 保護者アンケートの結果：本校の教育に関して好意的な意見もあるが、個人的な要望とされる意見もあった。 生徒指導委員会（いじめ対策委員会）による情報提供：些細なことも全体で共有でき、大きな問題に発展するものはなかった。 学校運営協議会理事による学校評価：建設的な意見をいただけた。
	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>生徒アンケートから、嫌がらせも含めて、気になるところがある生徒については、すべて対応した。幸い、現在進行形のものはほとんどなく、過去のものであった。また日々の学校生活においても、学年団の中で生徒の様子を情報共有し、迅速な対応を行うことができた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ等については、表立ってないものや、生徒が抱え込んでいるものもあるかもしれない。安心するのではなく、常にアンテナをはり、学年団や全体で共有、解決できるように定期的な生徒指導委員会は継続していく。 スマホや学校のタブレットを使ったいじめ案件も耳にするが、本校では決してそのような事案がないように、各分掌と協力して情報モラル教育や道徳等も活用しながら、生徒の育成を心掛けていく。

学校関係者による意見・支援策

- ・大きなじめがないのは良いが、大人には見えない些細なトラブルはあると思う。
- ・教員同士で情報交換をされていることだが、見えない部分は、保護者とも連携しながら、大きな問題になる前に対処していただきたい。
- ・毎日楽しく学校に行ける環境づくりにこれからも尽力していただきたい。